北海道大学大学院文学研究院

ミュージアム学芸員の
企画展制作〈立案・運営・評価〉スキル
養成深化プログラム

木になり
鳥になり

1. 育成対象者

- 美術館・歴史系博物館の学芸員
- 文化施設等の専門職員
- 文化行政に携わる自治体職員等
- 学芸員を目指す大学院生等
- 学芸員経験者・休眠学芸員

受講生・聴講生のなかには…

北海道立近代美術館、北海道博物館、北海道立帯広美術館、
北海道立旭川美術館、釧路芸術館、札幌芸術の森美術館、
モエレ沼公園、本郷新記念札幌彫刻美術館、小川原脩記念美術館、
苫小牧市美術博物館、神田日勝記念美術館、札幌市市民交流プラザ、
ニトリ小樽芸術村、 などの現役の学芸員や職員
＋ 司書、ミュージアムグッズ愛好家、元学芸員など多彩な顔ぶれ

- 2018 年度の参加者は 35 名、2019 年度は 40 名
- 北海道各地から参加者が集まり、貴重な情報交換の場に
- 北大 OEC（オープン・エデュケーション・センター）の協力で講義等の映像を教材化→本務が多忙、遠隔地在住等のため頻繁に参加できない受講者にも講義を配信

北海道中から受講者が集まる

2. 育成の意義

- ミュージアムと学芸員への期待が近年、ますます高まってきている
- しかし、学芸員は業務に追われて体系的に学び直す機会が乏しい
- 大学のリソースを活用し、リカレント教育の場をつくることが必要！

文化庁「大学における文化芸術推進事業」の助成を受けて
北海道大学学芸員リカレント教育プログラム
（通称「学芸リカプロ」）
2018 年度より開始！

- 企画展の立案・運営・評価に関するスキル・能力の深化
- 地域の芸術・文化活動の活性化
- 地域の文化発信力の底上げ

3. プログラムの内容・特色

最新の知見や技術に触れる「シンポジウム」「講義」

- 講義のテーマは展覧会の企画、館のマネジメント、事業評価、資料保存、博物館倫理、ミュージアムグッズなど、多種多様
  ※2018 年度は、のべ 16 名の講師を招聘

企画展制作に取り組む「実習」

- 最終年度となる 2020 年度に北大総合博物館で企画展を開催予定
  そのための準備を通じて、実践的に学ぶ
- グッズ開発や事業評価等、日常業務で経験しにくい要素にも挑戦

学内のリソースを活用し、 社会との接点を探る公開イベント「特論」

- 人形劇 × 考古学、建築 × 煎茶道などを掛け合わせたイベントを開催
- 学内外との積極的な連携により、大学と社会とのよりよい関係を探る

4. 2018 年度事業の成果

北海道立近代美術館にて成果報告会を開催

- 受講生が口頭発表（7 名）、ポスター発表（15 名）、シンポジウム発表（3 名）を行い、のべ 137 名の市民が来場
- 道立近代美術館の企画展と連動したシンポジウム「夭折の画家、再考」では、受講生自身がパネリストとして登壇

⇒ 専門性を深めつつ、学びの成果を発信
※本報告会は北海道芸術学会と共同主催

学びの成果が各自の活動に活かされはじめる

- 北大総合博物館にて、受講生が企画し、自ら講師を務めるイベントを開催
  （「北大博物館で考えよう！新（珍）ミュージアムグッズの未来形」）
- 受講生の一人（元学芸員）が自宅でマイクロミュージアムを主宰

5. 2019 年度事業の取り組み

シンポジウム、 講義、 実践研究、 特論を実施。 さらに「実習」で次年度の企画展準備を進める。

- シンポジウム「文化多様性は何を目指すのか―ミュージアムと考える、新時代」（6 月 24 日）を開催
- 11 月 7 日現在で、4 回の「講義」と 3 回の「実践研究」を開催。外部講師を招き、ミュージアムグッズ、博物館倫理、調査研究と展示等、幅広い内容を学ぶ。グループワークやディスカッションも重視。
- 「特論 文化拠点とまちづくり」（9 月 21 日）では北海道東川町でまちづくりの現場を体感。受講者がパネリストとして参加するシンポジウムや、建築家によるレクチャーを開催。
- 「実習」を通じて、2020 年度に開催予定の企画展（北海道大学総合博物館）を準備

今後は…

2020 年度 10 月
北海道大学総合博物館での
企画展開催を目指して活動！

學藝
リカプロ
Museum Curators' Recurrent Education Program: Planning, Management, Evaluation

E-mail : recurrent_hokudai@let.hokudai.ac.jp / WEB : https://www.let.hokudai.ac.jp/general/recurrent-about